

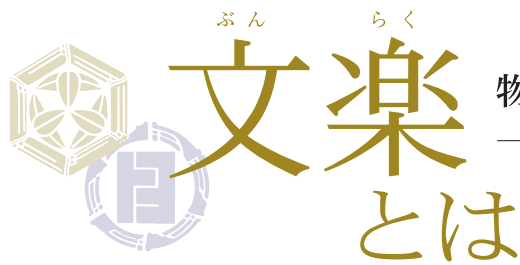
地方公演ご案内

人形浄瑠璃

文楽

解説・字幕付き

冥途の飛脚
封印切の段



物語を語る「太夫」、情景を音で表現する「三味線」、
一体の人形を三人で遣う「人形」、この三業が一つとなって
舞台から客席へ感動をお届けする、
日本が世界に誇る伝統芸能です。

■上演予定演目

昼の部

午後二時開演 (標準開演時刻)

解説 (あらすじ)

花競四季寿より万歳・鷺娘

近松門左衛門=作

冥途の飛脚

羽織落としの段／封印切の段



万歳



封印切の段

夜の部

午後六時開演 (標準開演時刻)

解説 (あらすじ)

団子売

菅原伝授手習鑑

寺入りの段／寺子屋の段



団子売



寺子屋の段

■公演期間と地域

2022年

10月公演

カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	10/1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2022年9月28日(水)～10月16日(日)

近畿・中部・北陸・関東・東北・北海道の各方面

※申込締切：2021年10月22日(金)

2023年

3月公演

カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
2/26	27	28	1	2	3/3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	4/1

2023年3月3日(金)～3月21日(火・祝)

九州・四国・中国・近畿・中部・関東の各方面

※申込締切：2021年11月26日(金)

■公演契約金

宿泊を伴う場合

◎平日 一日 3,630,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 3,300,000円】

◎土日祝 一日 3,850,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 3,500,000円】

大阪近郊で宿泊を伴わない場合

◎平日 一日 3,190,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 2,900,000円】

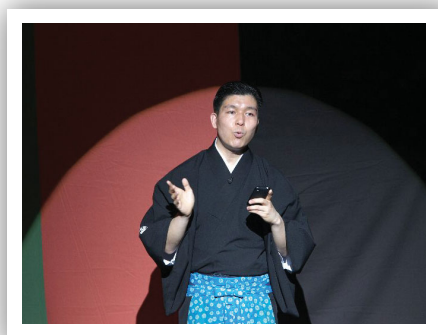
◎土日祝 一日 3,410,000円(消費税込)
【消費税抜き本体価格 3,100,000円】

○原則として一日二回公演(昼の部・夜の部)を前提とした公演契約金を表示しています。ただし、同じ演目を一日二回上演すること、昼の部と夜の部の演目を入れ替えて上演することはできません。また二日間や三日間続けて上演したいなど、変則的なパターンをご希望の場合はお気軽にご相談ください。

■経費負担区分(主な目安)

公演契約金に含まれるもの	公演契約金に含まれないもの
●出演料 ●大道具費 ●大道具人件費(舞台監督料を含む) ●交通費 ●宿泊費(宿泊を伴う地域のみ) ●輸送費(通行料も含む) ●照明プランナー費(1名) ●字幕機材および字幕オペレーター費 ●著作権使用料(広報用写真素材の支給も含む) ●出演者および帯同スタッフの食事 ●事務経費 ●消費税	●公演にかかる会館使用料・楽屋使用料、付帯設備使用料および備品借用料(舞台管理経費および増員経費も含む) ●現地照明費(ピン操作のできる技量の方を3名)※ ●搬出入補助経費(5~6名程度)※ ●本火使用等の所轄消防への禁止行為解除申請手続(使用時のみ) ●舞台上で使用する現地調達が必要な消え物(使用時のみ) ●音響経費 ●影アナウンス経費 ●広報および宣伝広告費 ●ケータリング費(出演者向けの簡単な茶菓の提供) ●主催者側スタッフ(現地手配スタッフも含む)の食事 ●券売および公演当日の表方の運営

※主催者様には現地照明係員3名、大道具の搬出入の手伝い5~6名をご手配いただきます。
それぞれの手配ならびに経費は主催者様のご負担となります。



出演者によるあらすじ解説



字幕付き上演



物販用プログラム

■公演を成功に導くために

字幕付き 上演となりました

- ご要望の多かった字幕を導入しており、お客様にもわかりやすいと好評です(会館の条件によっては技術上、お断りする場合があります)。
- チラシ・ポスターは文楽協会で作成したものを、実費でお分けすることができます。
- 館内広報にお使いいただけるDVDをご用意します。
- 文楽って難しい? そんなイメージが一気に払拭でき、券売にも効果的な事前レクチャーの開催が可能です(日程・料金別途要相談)。

■公演のお申し込み締切

【2022年10月公演】 締め切り/2021年10月22日(金)

【2023年 3月公演】 締め切り/2021年11月26日(金)

主催事業がまだ決まらない...締め切りに間に合わない場合や上記締め切り後でもお気軽にご相談ください。また、予定していた主催事業の急な変更など、スケジュールがうまく調整できればお受けできる場合も多々ございますので、まずはご相談ください。

■助成について

本ご案内「文楽地方公演」は芸術文化振興基金(伝統芸能の公開助成)の助成が採択された場合、全国画一の公演価格で文楽公演を提供することが可能となるものです。本ご案内については全国すべての会場における文楽公演について、一つの助成活動とした上で、芸術文化振興基金助成を文楽協会が申請する予定です。従いまして、各会館様、財団様におかれましては、同種助成金(音楽堂活性化等)・文化庁助成について申請をお考えの場合に、文楽公演部分については重複申請とならないよう特にご留意ください。

■劇場機構条件

※一例ですので、条件に満たない場合はお気軽にご相談ください

- 舞台間口...8間以上(プロセキア間口で)
- 舞台奥行...4間以上(どん帳から)
- 舞台袖...1間半(上手・下手ともに)
- 吊り物バトン...4本程度(どん帳線より2間下がったところから舞台奥へ)
- 貴館所有の平台と箱馬の数と寸法をお知らせください(間口8間、奥行2間、高さ1尺くらいの二重舞台を組める平台・箱馬が必要です)
- 太夫台を上手客席に張り出します(どん帳ギリから高さ2.1尺、奥行5尺で長さ21尺の台を持ち込みます)ので、その分客席がつぶれることになります。
- 基本的に乗り打ちとなります。夜の部の上演終了から片付け・撤収には2時間程度必要です。
- 4トントラック二台が駐車できるスペースが必要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況及び芸文基金の採択状況により公演の開催を中止する場合がございます。

■お問い合わせ・お申し込み先

別紙(送り状裏)「文楽公演申込書」にてお申し込みください。舞台の平面図・側面図・照明設備図・客席図・楽屋図をご同封ください。

〈ご送付・お問い合わせ先〉

公益財団法人文楽協会

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10
TEL 06-6211-1350 FAX 06-6211-3609
地方公演担当 水落 学(みずおち)
e-mail: mizuochi@bunraku.or.jp

昼の部

◇花競四季寿 万歳・鷺娘

文化6年(1809)、大坂の御霊社内の芝居で初演。春夏秋冬をテーマにした4つの舞踊からなる作品で、春の「万歳」と、冬の「鷺娘」をお届けいたします。

かつてお正月には欠かせない存在だった万歳一太夫と才蔵が、独特の雰囲気をもたせてにぎやかに新春を寿ぎ、「鷺娘」では、白鷺の精が、降り積もる雪に耐えながらも、やがて来る春の兆しを見つけ、喜びます。

◇冥途の飛脚

羽織落としの段・封印切の段

竹本座で正徳元年(1711)7月以前に初演されたと推定される、近松門左衛門の上中下三巻の世話物。飛脚屋亀屋の養子忠兵衛が金を横領、遊女を請け出して逃亡した事件をもとにしています。

忠兵衛は、愛する遊女梅川を他の客に身請けさせまいとして、友人八右衛門宛に届いた金を、身請けの手付金に流用。八右衛門に事情を話し、謝罪しましたが、金はまだまだ足りません。

夜、急ぎの金300両を届けるため、武家屋敷へと向かう忠兵衛。ところが、いつのまにか、足は梅川にいる方へ。梅川に会いたい…いや、金を届けなければ…迷いに迷い、行ったり来たり。とうとう、羽織が脱げ落ちたのにも気づかずに、遊廓へ。

そこで立ち聞きしたのは、八右衛門の話。金に詰まった忠兵衛の行く末を案じ、廓から遠ざけようとしてのこととはいえ、金の使い込みを暴露する、嘲罵にも似た言葉に、生来短気な忠兵衛は、逆上。梅川の嘆きも耳には入らず、金なら持っている、300両の封印を切って、金を八右衛門に投げつけ、梅川を身請けして逃走…。

忠兵衛が理性を失い破滅していくさま、人間の弱さ、愚かさをみごとに描いた近松の代表作の一つです。

夜の部

◇団子売

江戸時代、臼と杵を持ち歩き、団子を作って売っていた団子売。一搗きごとに杵を振り、臼を叩いて、人集めをしたようで、その様子は、月の兎が団子を搗く、清元の歌舞伎舞踊『玉兎月影勝』(1820)に取り込まれました。これをもとに作られたのが、本作。若い夫婦が団子を搗き、踊りを披露するというもので、歌舞伎舞踊に逆輸入されています。

◇菅原伝授手習鑑

寺入りの段・寺子屋の段

平安時代、右大臣菅原道真は、左大臣藤原時平の讒言により、大宰府に左遷され、失意のうちに亡くなり、怨霊に。雷神として恐れられ、その後は学問の神様として慕われ、今日に至っています。本作は、さまざまな天神(道真)伝承を取り入れて、竹田出雲(初代)、並木千柳、三好松洛、竹田小出雲(二代出雲)が合作し、人形浄瑠璃の黄金期、延享3年(1746)に竹本座で初演。浄瑠璃三大名作の一つに数えられる五段の時代物で、中でも最もよく上演される四段目を

ご覧いただきます。

道真の領内に住む百姓の三つ子の兄弟は、道真の計らいで、それぞれ、親王、時平、道真に舎人として仕える身。時平の讒言で道真が失脚すると、時平を主人とする松王丸は、道真方の親兄弟と敵対。

時平が命を狙う道真の若君を我が子と偽り匿うのは、道真の書の高弟で寺子屋を営む武部源蔵。しかし、それも発覚。若君の首を討てと命じられ、進退きわまった源蔵は、やむなく、その日に入門したばかりの男の子を身代わりに。首の検分役は、若君の顔をよく知る松王丸。その目をごまかせる可能性はほとんどなく、討ち死覚悟で首を差し出す源蔵。と、意外にも、若君の首と松王丸が認め、うまくだませたと思いきや…。

松王丸は、道真に恩を受けながら敵対せざるを得ない立場に苦悩、若君を救って恩に報いようと、身代わりが必要となる源蔵のもとへ我が子を—それまで悪人と思われて来た松王丸の本心、子を失った悲痛な思いが明かされます。

江戸時代に何万と存在し、道真が祀られていた寺子屋を舞台として、腕白ざかりの子供たちが笑いを誘う冒頭から、松王丸夫婦の悲しみが胸に迫る、名曲として知られる段切の「いろは送り」まで、緊迫感みなぎる屈指の人気演目です。

2021年9月

各 位

公益財団法人文楽協会

大阪市中央区日本橋 1-12-10

TEL 06-6211-1350

FAX 06-6211-3609

拝 啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、(公財)文楽協会では全国の皆様方に、わが国の代表的な芸能「文楽」を身近に鑑賞していただくために、(独)日本芸術文化振興会の助成(芸術文化振興基金)を得て、毎年10月と3月に「文楽地方公演」を実施しております。

〈昼の部〉 はな くらべ し き のことぶき まん ざい さぎ むすめ
花競四季寿より万歳・鶯娘

近松門左衛門=作

めい ど ひ きゃく は おり お ふう いん ざり
冥途の飛脚 羽織落としの段／封印切の段

〈夜の部〉 だん ご うり
団子売

すが わら でん じゅ て ならい かがみ てら い てら ご や
菅原伝授手習鑑 寺入りの段／寺子屋の段

と馴染み深い名作を携えて、全国各地を巡演してまいります。

日頃、文楽に親しんでいただく機会の少ない多くのお客様から「浄瑠璃を聞きたい」、「まるで生きているような人形を見てみたい」というお声をたくさんいただいております。

この機会に太夫・三味線・人形三位一体で醸し出す「文楽」のすばらしさをより一層楽しんでいただけますよう、技芸員をはじめ文楽協会一同努めてまいる所存でございます。

日頃から「文楽」に深いご理解と温かいご支援をいただいておりますことに、改めてお礼申し上げますとともに、日本が世界に誇ります伝統芸能「文楽」を、どうぞご当地で開催していただきますよう、心からお願い申し上げます。

敬 具

2022年度 文楽公演申し込み書

※お申し込み締め切り：2022年10月公演は2021年10月22日
2023年 3月公演は2021年11月26日

公演希望日

公 演 月	順位	希 望 日	公演回数	備 考
10月 公 演	第 1	月 日 ()		①公演期日は9月28日～10月16日を予定 ②公演回数は原則として昼・夜2回
	第 2	月 日 ()		
	第 3	月 日 ()		
3 月 公 演	第 1	月 日 ()		①公演期日は3月3日～3月21日を予定 ②公演回数は原則として昼・夜2回
	第 2	月 日 ()		
	第 3	月 日 ()		

☆全国各地を順を追って公演しますので、希望日は参考とさせていただき改めて日程調整をさせていただきます。
また土曜日・日曜日・祝日はご希望が多いため要望に添えない場合があります。

公演会場

名 称				
所 在 地	〒 (-)			
連 絡 先	電 話		FAX	

添付資料 (添付の場合は○印をつけて下さい)

図 面	有・無	備 考
舞台平面図		
舞台側面図		
照明設備図		
客 席 図		
楽 屋 図		

平台・箱馬数

平台	寸 法	台 数
箱	馬	

主 催 者

ふりがな		ふりがな	
名 称		担当者	
課 ・ 係等		E-mail	
電話・FAX			
ふりがな			
所 在 地			

お申し込み月日

年	月	日
---	---	---